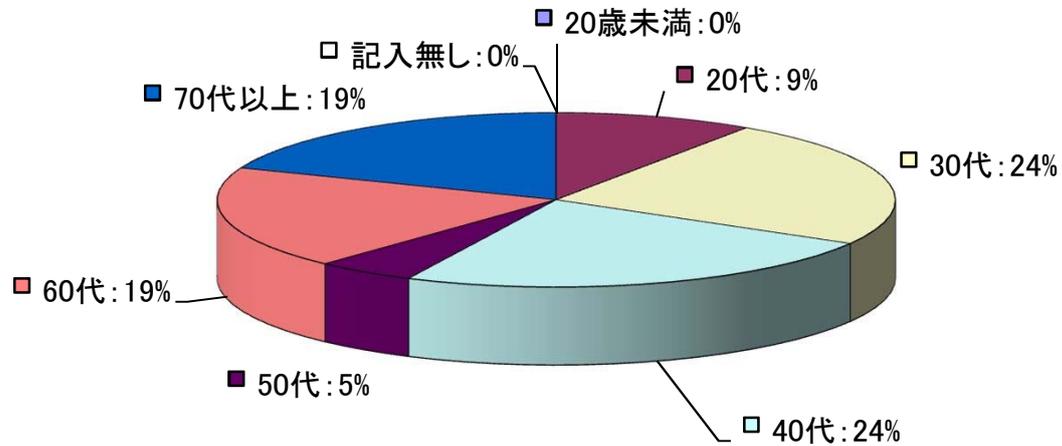


第31回 宮崎海岸市民談義所 アンケート結果

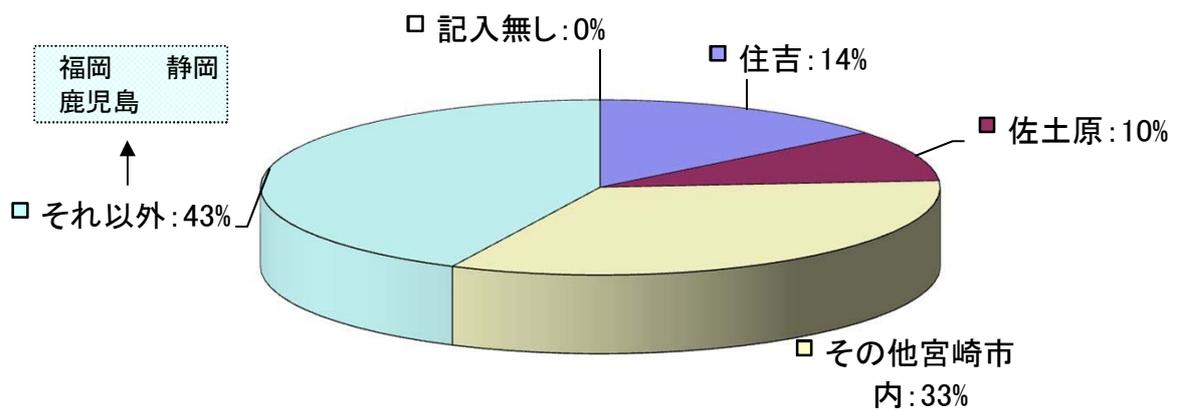
(第31回談義所:2016年6月17日(金)19時00分~21時00分実施、アンケート回収数:21)

1. あなたのことについて教えてください

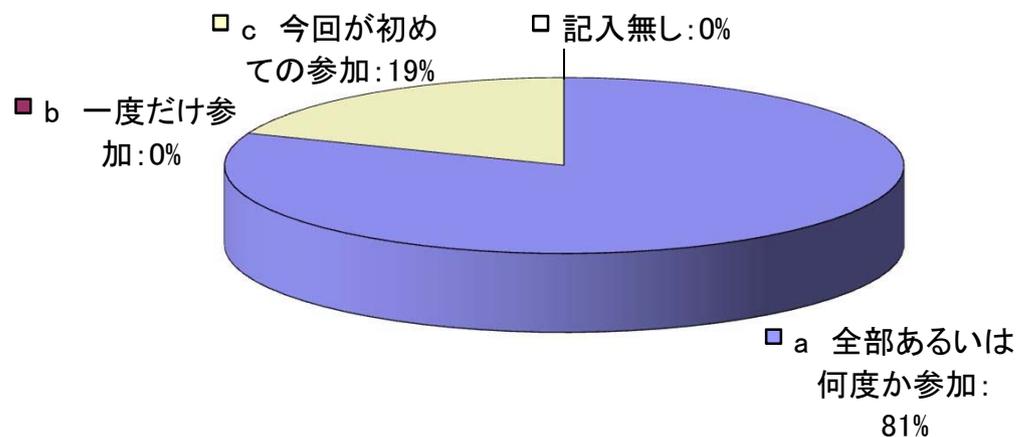
1-(1) 年齢は？



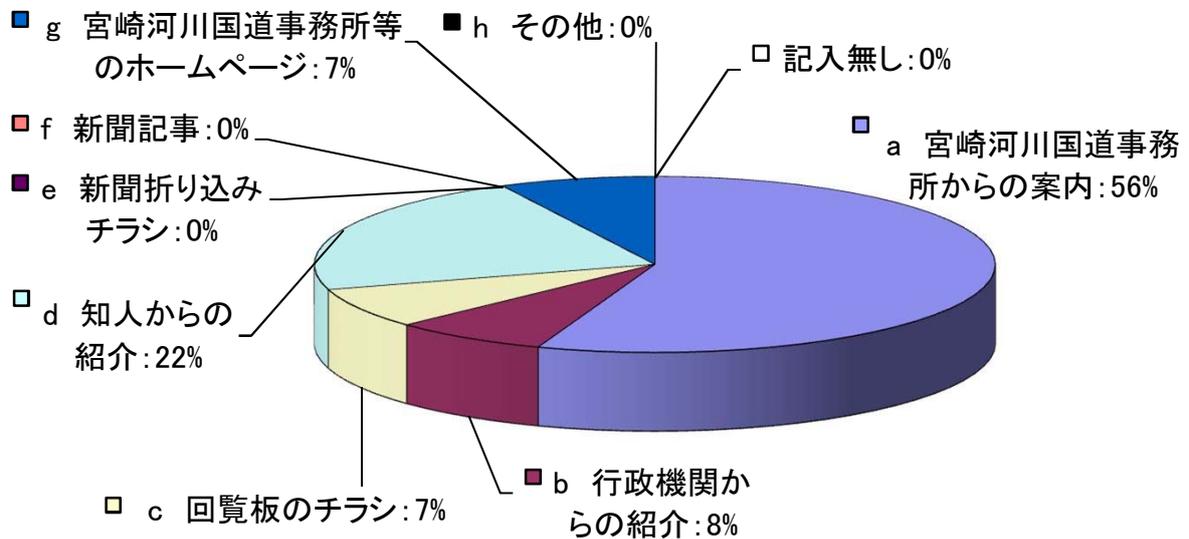
1-(2) 住んでいるところはどこですか？



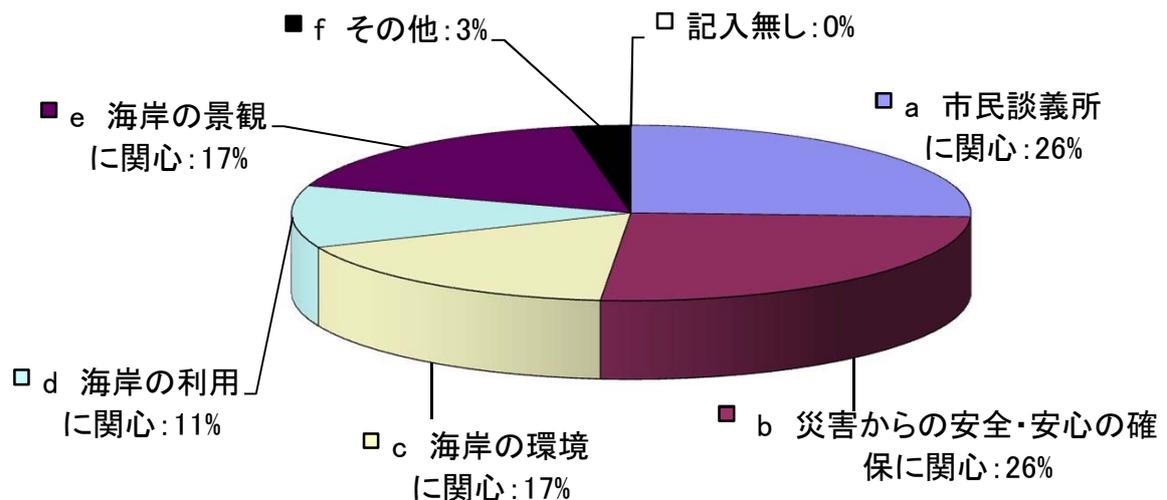
1-(3) これまでに参加したことはありますか？



2. 市民談義所を何によって知りましたか？ (複数回答)



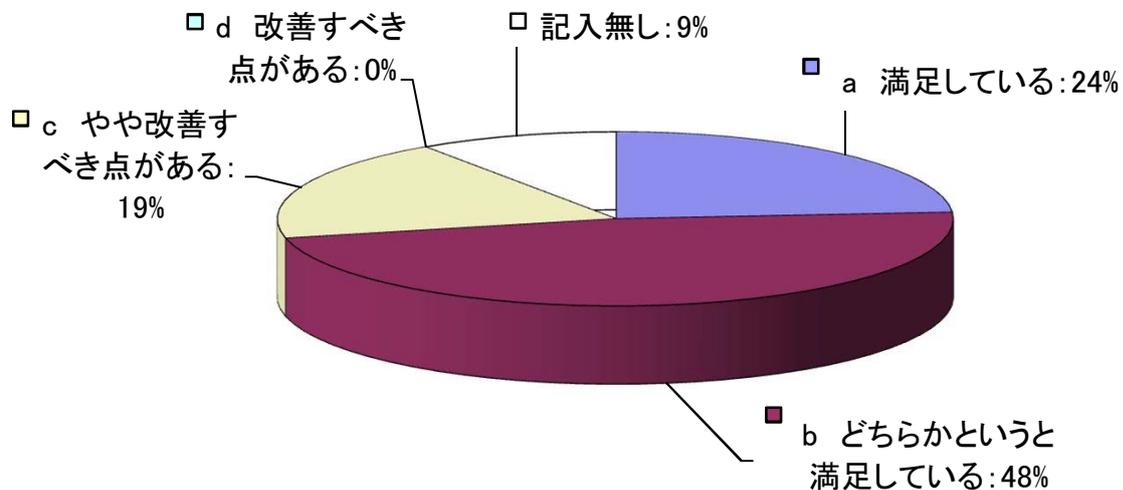
3. 今回参加された動機は何ですか？ (複数回答)



<その他ご意見>

- ・砂丘の減退が限界を超えている。
- ・海亀の産卵が危機に。

4. 今回の市民談義所の満足度は？ (複数回答)



a 満足している(理由)

- ・ドローンによる現況説明が良い
- ・事業の予定が聞けた

b どちらかという満足している(理由)

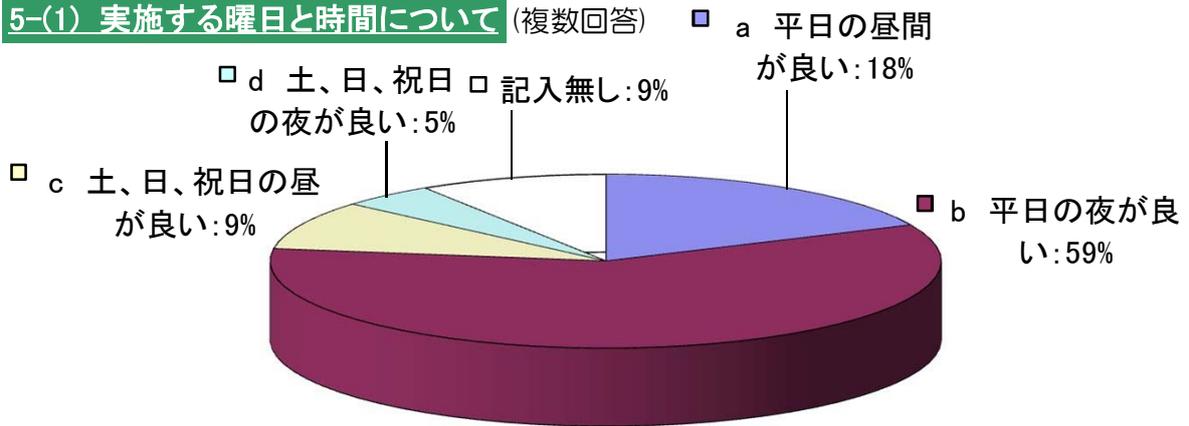
- ・皆で海岸を良くしようと、真剣で。
- ・それなりに努力しているから

c やや改善すべき点がある(提案)

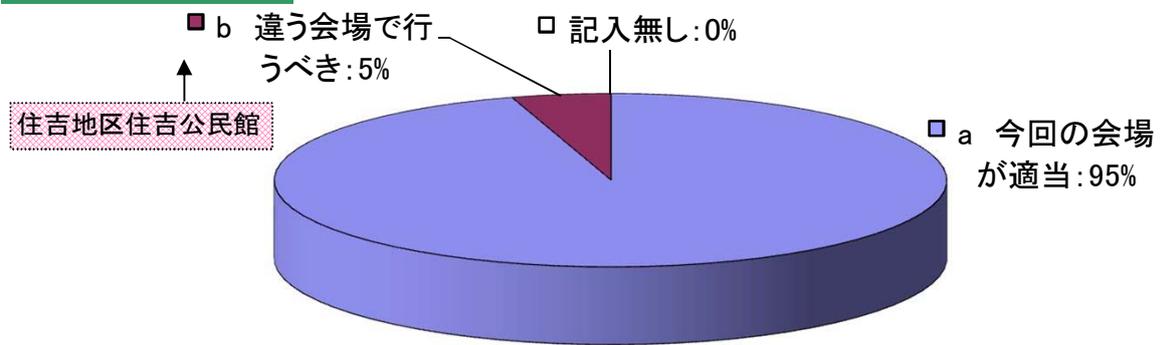
- ・3工程のシミュレーションをお願いしたい
- ・出席者の意見を聞くこと、もっと

5. 市民談義所の運営に関して

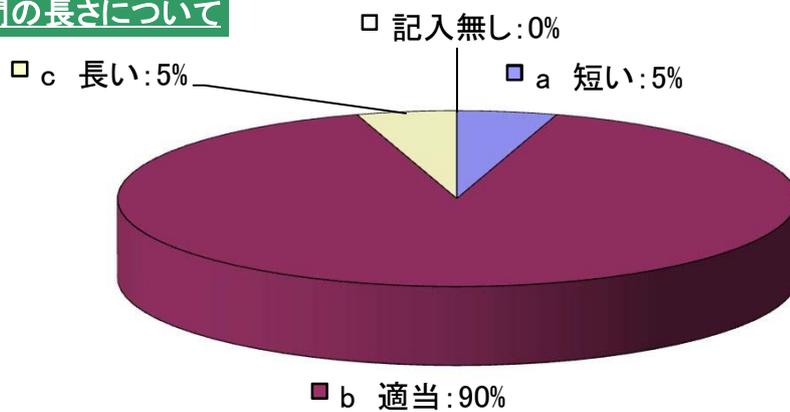
5-1) 実施する曜日と時間について (複数回答)



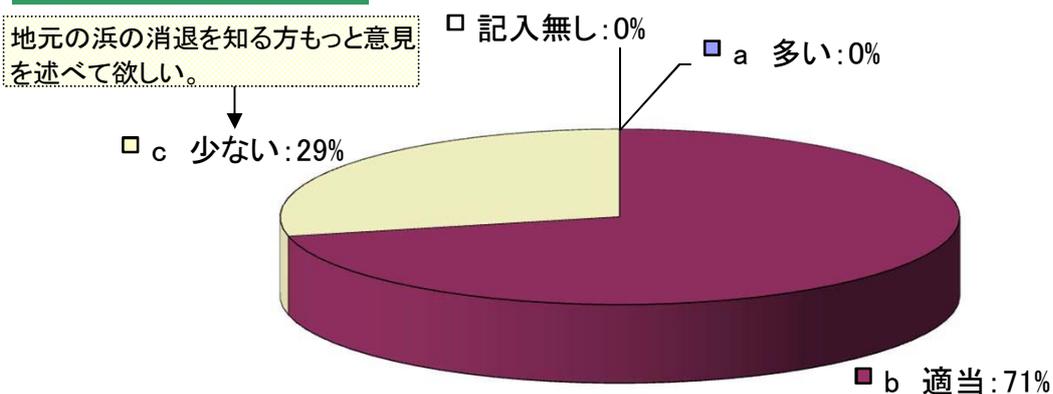
5-2) 会場について



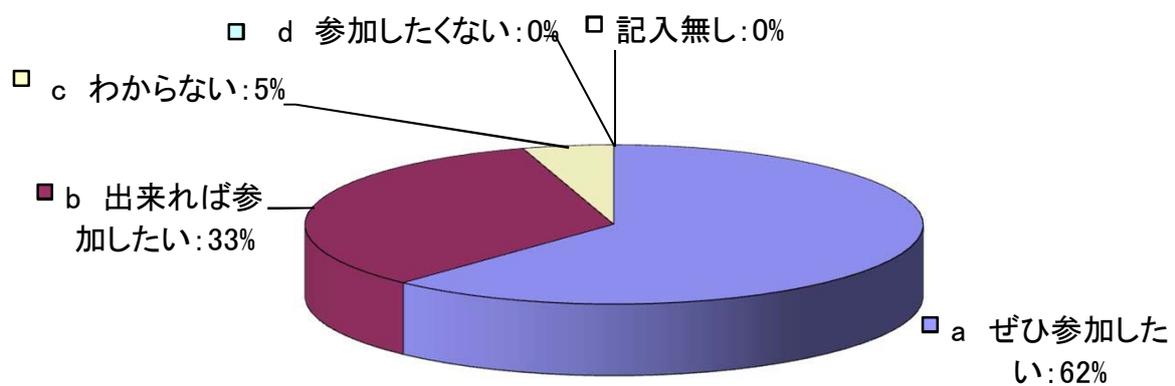
5-3) 時間の長さについて



5-4) 参加人数について



6. 次回、市民談義所への参加の意向



7. 次回以降の市民談義所で、談義したいテーマ等

8. その他、市民談義所の進め方等についてのご意見

次ページ以降参照

(1) アンケート結果と回答(1/3)

アンケート記載内容	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・突堤を伸ばしたときのシミュレーション結果を動画で示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段階1完了時：突堤・補助突堤周辺に砂浜が出現（浜幅：大炊田52m、動物園東63m、住吉41m） ・段階2完了時：一部の区間を除いて浜幅50m確保（浜幅：大炊田68m、動物園東71m、住吉90m） ・段階3完了時：全域で浜幅50m確保（浜幅：大炊田78m、動物園東94m、住吉123m） 【p9参照】
<ul style="list-style-type: none"> ・3工程のシミュレーションで砂がどの程度効果があるのか実験結果を。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・データが正しければ年間どれ位の浜の成長が望めるのか数値で示して欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・砂が滞留しているのであれば長期的には浜は成長し段差は縮小していきますと述べられないのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂は動いています、突堤と養浜により砂浜が回復していくことを目指しています。【p9参照】
<ul style="list-style-type: none"> ・99万³（海中養浜の投入量）の数量の根拠を示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海中養浜は34.7万³、陸上養浜は64.9万³です。 【内訳はP10参照】
<ul style="list-style-type: none"> ・経費の安い早めの砂浜復旧を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業と連携して養浜の効率的調達を行うなど、コスト縮減に努めており、引き続き取り組んでいきます。【p10参照】
<ul style="list-style-type: none"> ・突堤300m設営完成すれば砂が付くと云われるが水深12m以上での砂の移動はないことを考えれば100m位でも充分砂が付いて当然だ。こだわるけど100mで砂が付かなければ突堤の意味がない。1m70万円経費が全く無駄になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・突堤建設後、陸上砂浜は安定傾向にあるとみています。引き続き測量等で監視していきます。【p11参照】

(1) アンケート結果と回答(2/3)

アンケート記載内容	事務局の回答
<p>・宮崎港の人工海浜(サンビーチ)現況と現在に至るまでの経緯(状況)等が知りたい。※南ビーチ(海水浴場)はとんでもないことになっている)</p>	<p>・宮崎港の南ビーチでは、砂の堆積により海水浴場の水域が減少しているため、H14年以降、7月の海水浴場オープンの前に、砂を持ち出す工事を行っているところです。</p>
<p>・突堤と補助突堤の間を養浜にしてみたらどうですか。</p>	<p>・今年度の工事で実施しました。</p>
<p>・養浜の汚濁が漁業に具体的に影響があるかを示して欲しい。</p>	<p>・H24年度まで養浜箇所への濁りの調査を実施してまいりました。その結果では、影響は軽微であると考えています。(第2回効果検証分科会に提示・承認)</p>
<p>・災害(侵食)⇄復旧(養浜)繰り返してもきりがない(無駄)→他の部分が被害を受けるのでは。壊れなものをつくる、これぐらいの波で被災受けていたら、大波(強台風)がきたら一発全壊だと思います。</p>	<p>・宮崎海岸保全の基本方針に基づき、砂浜を回復するための養浜、突堤について、自然環境、利用・景観にも配慮しながら対策を実施しています。災害発生時も、適切に対応していきます。</p>
<p>・袋詰石は弱いということは明らかに実証されている。グラベルマットも素人から見たら、ただ石の大きさが小さくなっているだけでは？また今度の台風で被災を受けるのでは？</p>	<p>・グラベルマットの袋材は、袋詰玉石の製品よりも丈夫なこと、中詰石が小さいと袋が切れにくい特徴があります。</p> <p>・グラベルマットの選定においては宮崎海岸ステップアップサイクルにより、過年度の被災においても、技術分科会等にて検討を行い、構造等のステップアップを行っています。洗掘対策工としてグラベルマットを試行的に用い、今後、効果検証を行いながら、対策を進めていきます。</p>

(1) アンケート結果と回答 (3/3)

アンケート記載内容	事務局の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・総合土砂管理の取組について説明して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度より中部流砂系として取り組んでいます。 ・現在、小丸川の総合土砂管理計画の検討を進めているところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・数値は出てくるが計算上こう改善しますという目標を数値にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の参考にします。
<ul style="list-style-type: none"> ・浜幅50mの確保達成の工事進行遅進。特にサンドバック設置後停滞工事に酔いしれている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの写真は新しくなっていないことが議論に挙がったと思います。パンフレットページ内に例えば1年単位でも良いので写真を掲載したらどうでしょうか？ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチクリーンに約600名の人が参加している。海岸浸食に対するアンケートを実施して欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・海岸課長の発言で「一応～」という接語が多い気がします。不安な感じがするので注意した方が良いかもです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の談義が活かされていないと思う。 	

(2) 参考資料 ② 実施した養浜量の根拠

場所	ニツ立	大炊田	石崎浜	動物園東	住吉（陸上）	住吉（海中）	住吉（離岸堤）	陸上養浜合計	海中養浜合計	全体合計
年度										
H20			6.4	1.6		11.7		8.0	11.7	19.7
H21	1.2		1.8	2.0		7.4		5.0	7.4	12.4
H22	3.5		4.2	1.8		6.7	3.2	12.7	6.7	19.4
H23	0.3	3.3		1.5		2.1	0.6	5.7	2.1	7.8
H24	1.1	1.3		1.6	0.5	2.0		4.5	2.0	6.5
H25	1.2	8.5	1.9	3.3		2.0		14.9	2.0	16.9
H26	1.3	3.6		2.6		0.7		7.4	0.7	8.1
H27	0.3	2.4	1.0	3.0		2.1		6.7	2.1	8.8
計	8.9	19.0	15.3	17.4	0.5	34.7	3.8	64.9	34.7	99.6

掘削は他事業、運搬・投入は海岸事業など連携して実施

港湾事業で実施



(2) 参考資料 ③ 突堤北側の地形変化

- ・突堤の効果把握するため、突堤の沿岸漂砂上手側にあたる⑧住吉海岸ブロック及び同ブロック内の突堤北側近傍の長期的な土砂変化量と浜幅を整理した。
- ・陸域と海域を含めた土砂変化量は、過去から侵食傾向が継続しており、突堤建設以降においても、明確な回復傾向は見られない。
- ・一方、陸域の砂浜に着目すると、突堤建設までは砂浜が消失していたが、突堤建設以降、突堤北側近傍では、前進傾向が見られる。

